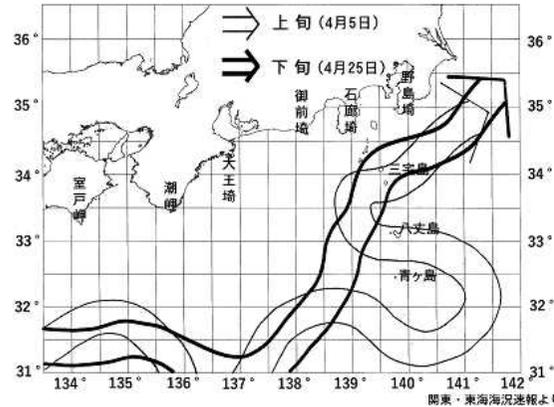


漁海況月報

令和6年4月1日

No. 4 ~4月30日

静岡県水産・海洋技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産・海洋技術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



4月定地水温の旬平均値(°C) (下段は平年値*からの偏差)

| 期間 | 伊東 | 稲取 | 下田 | 雲見 | 沼津 | 焼津 |
|----|------|------|------|------|------|------|
| 上旬 | 16.4 | 16.3 | 16.2 | 17.4 | 16.7 | 16.5 |
| | 1.4 | 0.9 | 0.8 | 1.4 | 0.8 | 1.0 |
| 中旬 | 17.1 | 17.5 | 17.3 | 17.9 | 17.6 | 17.7 |
| | 1.6 | 1.6 | 1.5 | 1.4 | 0.9 | 1.6 |
| 下旬 | 18.3 | 18.6 | 18.1 | 18.5 | 18.7 | 18.8 |
| | 2.1 | 2.1 | 1.6 | 1.1 | 1.2 | 1.7 |
| 月 | 17.2 | 17.5 | 17.1 | 17.9 | 17.7 | 17.5 |
| | 1.7 | 1.5 | 1.3 | 1.3 | 1.0 | 1.4 |

*平年値：過去30年(平成3年~令和2年)の平均値

【黒潮流路】

4月を通じてA型で、上旬、中旬は潮岬沖及び八丈島南方でW字状に離岸し、下旬は潮岬沖で離岸した後、三宅島付近まで北上する流路となった。

上旬は潮岬沖で大きく離岸し、潮岬沖31.0°N付近から遠州灘沖32.0°Nまで北上した後、八丈島南方31.5°Nまで緩やかに南下した。その後、八丈島付近を通過しつつS字状に北上し、三宅島付近を流れて北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から遠州灘、大島西水道に向けて見られた。

中旬は潮岬沖で大きく離岸し、遠州灘沖31.5°N付近から石廊崎沖34.0°Nまで北上した後、八丈島付近を南南東に通過しつつ32.0°N、141.5°Eまで南下した。その後、伊豆諸島東方をS字状に北上し、北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮屈曲部から熊野灘、遠州灘、大島西水道に向けて見られた。

下旬は潮岬沖で大きく離岸し、大王崎沖31.0°Nから三宅島付近34.0°Nまで北上した後、北東に流去した。暖水波及が石廊崎沖の黒潮北縁から熊野灘、遠州灘、駿河湾、大島東西水道に向けて見られた。

【沿岸域水温】

上旬は全ての地点で「やや高め」であった。中旬は雲見、沼津で「やや高め」、伊東、稲取、下田、焼津で「高め」であった。下旬は雲見、沼津で「やや高め」、伊東、稲取、下田、焼津で「高め」であった。

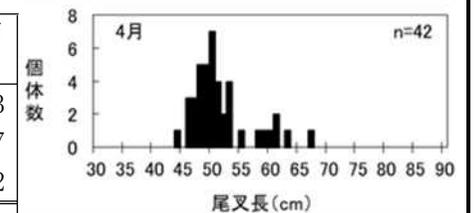
【竿釣カツオ】

4月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げは22.3トンで前年同月(81.5トン)の27%であった。平均単価は533円/kgで前年同月(576円/kg)を下回った。

漁場は33-34°N、138-139°Eの伊豆諸島北部海域などで、駿河丸による曳縄調査で漁獲されたカツオの尾叉長組成は中(尾叉長50cm)が主体であった。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

| 期間 | 水揚量(トン) | 水揚隻数 | 平均水揚量/隻(トン) | 平均単価(円/kg) |
|---------|---------|------|-------------|------------|
| R6年4月上旬 | 10.1 | 4 | 2.5 | 443 |
| 中旬 | 6.0 | 6 | 1.0 | 667 |
| 下旬 | 6.2 | 5 | 1.2 | 552 |
| R6年4月計 | 22.3 | 15 | 1.5 | 533 |
| R5年4月計 | 81.5 | 24 | 3.4 | 576 |
| R4年4月計 | 103.5 | 29 | 3.6 | 665 |



駿河丸曳縄調査で漁獲されたカツオの尾叉長組成

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は928.6トンで、前年(439.3トン)の2.1倍、平年(419.3トン)の2.2倍であった。また、1か統当たりの平均水揚量は132.7トン(前年:62.8トン、平年:59.9トン)であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(307.6トン、マイワシ、ブリ、マアジ)、次いで川奈漁場(239.3トン、ブリ、マアジ、マイワシ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)のとおりで、ブリは342.1トン、前年比1.0倍、平年比4.0倍で、銘柄ぶり主体であった。マイワシは322.2トン、前年比161,089倍、平年比7.8倍で、昭和57年以降、最も多い水揚量であった。マアジは133.5トンで、前年比10.0倍、平年比1.2倍であった。マルソウダは52.6トン、前年比373.0倍、平年比221.7倍で、昭和57年以降、最も多い水揚量であった。さば類は31.7トンで、前年比3.3倍、平年比51%であった。水揚げされたさば類のうち、マサバは16.6トンで、前年比3.7倍、平年比72%、ゴマサバは15.0トンで、前年比3.0倍、平年比32%であった。なお、さばっこは3.0トン(表記載以外)で、前年比8.0倍、平年比2.4倍であった。その他の魚種では、イサキが昭和57年以降、ふぐ類、メアジが昭和62年以降、イボダイが平成9年以降、最も多い水揚量であった。

多獲された魚種の主な漁場は、次頁(表)のとおりで、各漁場の水揚量の割合は、ブリでは川奈漁場が36%(124.5トン)、富戸漁場が21%(73.5トン)、赤沢漁場が16%(54.9トン)、マイワシでは古網漁場が72%(231.2トン)、伊豆山漁場が15%(48.1トン)、マアジでは川奈漁業が33%(44.4トン)、北川漁場が18%(23.5トン)、マルソウダでは北川漁場が63%(33.2トン)、さば類では北川漁場が33%(10.3トン)、川奈漁場が30%(9.6トン)、富戸漁場が18%(5.6トン)であった。

*平年：昭和57年~令和5年の平均値

多獲された魚種の水揚量と主な漁場

| 魚種 | 水揚量(トン) | 前年比 | 平年比 | 主な漁場 |
|-------|---------|------------|--------|----------|
| ブリ | 342.1 | 1.01 | 3.95 | 川奈、富戸、赤沢 |
| マイワシ | 322.2 | 161,089.40 | 7.76 | 古網、伊豆山 |
| マアジ | 133.5 | 10.04 | 1.24 | 川奈、北川 |
| マルソウダ | 52.6 | 372.99 | 221.67 | 北川 |
| さば類 | 31.7 | 3.34 | 0.51 | 北川、川奈、富戸 |

【サバたもすくい・棒受網】

小川港所属の棒受網漁船は月を通じてたもすくい漁業主体で操業し、漁場は大島千波及び利島に形成された。水揚量はマサバ99トン(前年同月比97%)、ゴマサバ137トン(前年同月比1.3倍)であり、1隻当たり水揚量はマサバ3.4トン(前年同月比37%)、ゴマサバ4.7トン(前年同月比1.0倍)であった。

平均単価は、マサバは169円/kgで前月(226円/kg)を下回り、前年同月(168円/kg)並であった。ゴマサバは198円/kgで前月(218円/kg)、前年同月(212円/kg)を下回った。

漁獲物の体長組成は、マサバは31、34cmにモードを持つ2峰型、ゴマサバは34cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

| 期間 | 水揚量(トン) | | 水揚日数 | 水揚隻数 | 水揚/隻(トン) | | 平均単価(円/kg) | | 漁場 |
|---------|---------|------|------|------|----------|------|------------|------|------------|
| | マサバ | ゴマサバ | | | マサバ | ゴマサバ | マサバ | ゴマサバ | |
| R6年4月上旬 | 41 | 30 | 5 | 9 | 4.6 | 3.3 | 188 | 217 | 大島千波、利島 |
| 中旬 | 26 | 60 | 7 | 13 | 2.0 | 4.6 | 170 | 210 | 大島千波、利島 |
| 下旬 | 32 | 47 | 4 | 7 | 4.6 | 6.7 | 143 | 169 | 大島千波、利島 |
| R6年4月計 | 99 | 137 | 16 | 29 | 3.4 | 4.7 | 169 | 198 | 大島千波、利島 |
| R5年4月計 | 102 | 49 | 9 | 11 | 9.3 | 4.5 | 168 | 212 | 三本、利島、大島千波 |
| R4年4月計 | 192 | 250 | 13 | 26 | 7.4 | 9.6 | 121 | 96 | 銭洲、三本 |

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため、月計と一致しないことがある。

【サクラエビ船曳網】

4月の出漁日数は11日、水揚量は215.7トンであった(前年同月の出漁日数は8日、水揚量は173.0トン)。主漁場は田子の浦～由比沖であった。漁獲されたサクラエビの体長組成は38～39mmにモードがあった。

サクラエビ水揚量

| 期間 | 水揚量(トン) | 日数 | 漁場 |
|---------|---------|----|----------------|
| R6年4月上旬 | 6.1 | 1 | 田子の浦沖、由比沖 |
| 中旬 | 103.9 | 5 | 田子の浦沖～蒲原沖 |
| 下旬 | 105.7 | 5 | 富士川沖～由比沖 |
| R6年4月計 | 215.7 | 11 | — |
| R5年4月計 | 173.0 | 8 | 沼津沖、田子の浦沖、蒲原沖 |
| R4年4月計 | 18.0 | 6 | 沼津沖、田子の浦沖、安倍川沖 |
| R3年4月計 | 36.5 | 6 | 興津川沖～三保沖 |

*—：出漁なし

【シラス船曳網】

県内7港における1日1か統当たりの水揚量は、遠州灘(新居、舞阪、福田、御前崎)が267kg、駿河湾(吉田、用宗、由比)が225kgであった。平均水揚量は247kgで前年同月(269kg)の92%、前年同月(過去5か年平均:375kg)の66%であった。また、総水揚量は512トンで前年同月(477トン)の1.1倍、平年同期(676トン)の76%で前年同月並であったが、前年同月を大きく下回った。平均単価は996円/kgで前年同月(1,305円/kg)の76%、前年同月(729円/kg)の1.4倍で、前年同月を大きく下回ったが、前年同月を大きく上回った。

7港のシラス水揚量

| 漁港 | 水揚量(トン) | 延日数 | 延統数 | 平均水揚量(kg/統) | 平均単価(円/kg) | |
|--------|---------|-------|-------|-------------|------------|-------|
| 遠州灘 | 新居 | 34.0 | 13 | 147 | 231 | 1,017 |
| | 舞阪 | 122.0 | 13 | 493 | 247 | 1,028 |
| | 福田 | 86.3 | 13 | 325 | 266 | 1,011 |
| | 御前崎 | 54.0 | 15 | 145 | 372 | 927 |
| 駿河湾 | 吉田 | 118.1 | 17 | 419 | 282 | 1,100 |
| | 用宗 | 82.1 | 19 | 359 | 229 | 820 |
| | 由比 | 15.1 | 9 | 179 | 84 | 987 |
| R6年4月計 | 511.6 | 99 | 2,067 | 247 | 996 | |
| R5年4月計 | 476.7 | 69 | 1,775 | 269 | 1,305 | |
| R4年4月計 | 317.7 | 82 | 1,747 | 182 | 898 | |

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年:過去5か年(平成31～令和5年)の平均値

【まき網(いわし類)】

マイワシの水揚量は、沼津港では1,340トン(前年同月18倍、前年同月比2.6倍)、小川港では1,174トン(前年同月比8.6倍、前年同月比6.5倍)、伊東港では52.7トン(前年同月水揚げなし、前年同月比1.4倍)、静浦港では水揚げがなかった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港いずれも水揚げがなかった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは322トン、カタクチイワシは水揚げがなかった。

*平年:過去5か年(平成31～令和5年)の平均値

【調査船駿河丸の動向】

| | | | | |
|-------|---|-------|--------------|-------|
| 4月4日 | ～ | 4月5日 | 地先定線観測調査 | (2日間) |
| 4月8日 | | | 習熟航海 | (1日間) |
| 4月10日 | ～ | 4月12日 | さば類散餌・計量魚探調査 | (3日間) |
| 4月15日 | ～ | 4月18日 | カツオ魚群分布調査 | (4日間) |
| 4月23日 | ～ | 4月24日 | いわし類卵稚仔分布調査 | (2日間) |
| 4月26日 | | | 習熟航海 | (1日間) |

静岡県水産・海洋技術研究所のホームページ

トップページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

海洋情報のページ…………… <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/O1ocean/>

右のQRコードから、人工衛星による観測情報、県内沿岸水温情報、関東・東海海況速報等を見ることができます。

